

### メッセージ 3

#### 神のみこころを言い表す祈り

聖書：エペソ6:18. エゼキエル36:37. イザヤ62:6-7.

I ヨハネ5:14-16前半. マタイ6:5-6, 9-15. 26:39

- I. 宇宙には三つの意志、すなわち神のみこころ(意志)、サタンの意志、人の意志があります。神は、人の意志が彼に結合し、彼と一になることを願っています。それによって、人は祈りの中で神のみこころを言い表し、神のみこころに呼応して、神を大いに喜ばせます——イザヤ14:12-15. マタイ6:10. 7:21. 26:39. ピリピ2:13:
- A. 命の木は神と神聖な意志を代表し、善悪知識の木はサタンとサタンの意志を代表し、アダムは人と人の意志を代表しています。わたしたちが多く霊的な祝福を失ってきたのは、命の木の原則にしたがって、またわたしたちの祈りを通して、神のみこころを言い表してこなかったからです——創2:9。
- B. 真の祈りの人は、彼の願いが神の願いの中へと完全にブレンディングされている人であり、彼の思考が神の思考と完全に一である人です。彼は、神の願いが彼の中に刷り込まれている人であり、また啓示の人であって、彼の心は神の心の複製です——サムエル上2:35. 3:21. 12:23。
- C. わたしたちの必要から始まって、自分自身の欲望を満足させる祈りは、神によって答えられるかもしれませんが、それには何の霊的な価値もなく、わたしたちは彼の御前に弱くなり、彼に喜ばれないでしょう——詩106:14-15. 参照、民11:18-35。
- D. 神によって開始され、彼が開始されたことに呼応する祈りだけに、霊的な価値があります。わたしたちはこのような祈りを学ばなければなりません——エペソ6:18. エゼキエル36:37. イザヤ62:6-7. I ヨハネ5:14-16前半。
- E. わたしたちは祈りの中で主に来るとき、その霊にわたしたちの願いと彼の願いをミングリングしていただき、わたしたちの思考を彼の思考の中へと導いていただいて、彼の願いと思考をわたしたちの中へと刷り込んでいただく必要があります。その時、わたしたちが神の内なる願いをもって、彼に向かって発する祈りは、彼にとって尊く、重みがあり、また価値あるものであって、サタンに損失を被らせます——ローマ8:26-27. ピリピ4:6. コロサイ4:2, 12. マルコ9:28-29. エペソ6:10-20。

F. 祈りとすべての霊的な働きには真の意味があり、それらは四つの段階から成っています：

1. 神は、彼のみこころにしがたって何かを行なうことを意図しておられます。
2. 神は、わたしたちが彼のみこころを知るために、その霊を通して、わたしたちに彼のみこころを啓示します。
3. わたしたちは祈りを通して彼のみこころを祈り返し、彼のみこころに呼応します。
4. 神は、彼のみこころにしたがって、彼のみわざを行なわれます。

G. 神は、人が復活した意志をもって霊を活用し、神の神聖なみこころにしたがって祈ることを必要としておられます。それはキリストがわたしたちによって現され、享受されるためであり、またからだの生活がわたしたちによって実行され、キリストのからだをわたしたちを通して建造されるためです——ヘブル10:5-10. ローマ12:1-2. エペソ1:4-6, 9, 11, 22b-23. 3:16-19. 4:16。

H. わたしたちは神のエコノミーを完成するために、神の願いとみこころにしたがって祈らなければなりません。そうして、わたしたちは祈ったことを受けたという確信を持つようになります——マルコ11:22-26。

II. ハンナの祈りは、神の心の願いに呼応し、それを語り出したものでした。それは、人が神の行動に協力して、神の永遠のエコノミーを完成するためでした——サムエル上1:10-20：

A. 神がハンナを動機づけることができたのは、彼女が命の路線において神と一である人であったからです。命の路線とは、神の民の享受のためにキリストを生み出す路線であって、それは地上で、神が彼の王国、すなわち、キリストのからだである召会、三一の神の有機体を持つためです——ヨハネ10:10. マタイ16:18-19. ローマ14:17-18. エペソ1:22-23。

B. 神は、命の路線において彼と一になる人を得ることができる限り、地上で道を持たれます。ハンナの祈りが示していることは、神の行動とハンナの祈りに対する彼の答えが、神の願いを成就するために絶対的であるナジル人を生み出すということです——サムエル上1:19—2:11。

III. エリヤは「わたしたちと同じ性情を持つ人で……祈りの中で祈りました」——ヤコブ5:17(直訳)：

A. 主からの祈りがエリヤに与えられ、彼はその中で祈りました。彼は、主のみこころを成就するために、主によって彼に与えられた祈りの中で祈りました。

- B. 彼は、自分自身の目的を達成するために、彼の性情、思想、意図、気分の中で祈らず、また環境や状況によって引き起こされた、どのようなものにも動機づけられて祈りませんでした。
- IV. ダニエルは祈りの人であって、神の言葉を通して、神の願いに自分自身を結合しました。自分自身を神の言葉に結合し、神のエコノミーの祈りをする人たちが、神にとって真に役立つ者となることができます——エペソ6:17-18. ダニエル9:2-3, 17:
- A. 神と協力する人の最高の表現は祈りです。そのような人は神にとって尊い人であり、さらには尊さそのものです——10:11, 19. 9:23。
- B. ダニエルは祈りに依存し、人ができなかったことを行ないました。また彼は祈りに依存し、人が理解することができなかったことを理解しました——2:14-23. 6:10. 10:1-21。
- V. アブラハムは神との親密な交わりの中に生き、神の友となりました。エホバであるキリストは、肉体と成る前、人の形において、また人の体をもってアブラハムに現れ、人の水準で親しく語られました——創13:18. 18:1-2, 13-15, 22. ヤコブ2:23. 歴代下20:7. イザヤ41:8:
- A. アブラハムが神の御前で行なった栄光のとりなしとは、二人の友の間にある人間的で、親密な会話であり、また神の心の願いを明らかにすることにしたがった親密な話し合いでした——創18:1-33. ローマ4:12. I テモテ2:1, 8. マタイ6:6。
- B. アブラハムは神との甘い交わりを享受していた時、イサクが生まれることと、ソドムを破壊することに関する啓示を神から受けました——創18:9-22:
1. これは、神の意図がキリストをわたしたちの中へと造り込み、わたしたちを通してキリストを生み出すことであり、またわたしたちの家庭生活、職場での生活、クリスチャン生活、召会生活の中にある「ソドム」を破壊することであることを示しています——ガラテヤ1:15-16. 2:20. 4:19. I コリント5:7-8。
  2. わたしたちと神との親密な交わりにおいて、わたしたちは、不可能なことはすべて、キリストにはできるという啓示を受けます——創18:14-15. 21:2-7. ルカ18:27。
- C. 神がソドムを破壊するという彼の意図をアブラハムに啓示したのは、神が、とりなす人を求めていたからでした——創18:17-22. 参照、ヘブル7:25. イザヤ59:16. エゼキエル22:30。
- D. 創世記第18章はとりなしの基本的な原則について、はっきりとした啓示

を提示しています：

1. 正しいとりなしは、人によって開始されるのではなく、神の啓示によって開始されます。このゆえに、それは神の願いを言い表し、神のみこころを完成します——17節， 20-21. 19:27-29. 詩27:4-8. ヘブル4:16. 7:25。
2. 一見すると、アブラハムはソドムのためにとりなしていました。実は、彼はそれとなく示すことによって(創14:12. 18:23. 19:1, 27-29)、ロトのためにとりなしていました。これは、わたしたちがこの世の中へと陥ってしまった神の民のためにとりなすべきであることを示しています。
3. とりなしは、神の心の内側にある意図にしたがって、神と親密に会話することです。このために、わたしは神の臨在にとどまり続けることを学ばなければなりません——18:22-33。
4. とりなしは、神の義の方法にしたがっています。アブラハムは、ロトのためにとりなすことにおいて、神の愛と恵みにしたがって神に願い求めたではありませんでした。アブラハムは神の義の方法にしたがって神に挑戦しました——23-25節. ローマ1:17。
5. アブラハムのとりなしは、彼の語りかけをもって終わったのではなく、神の語りかけをもって終わりました。これは、真のとりなしが、わたしたちの語りかけの中にある神の語りかけであることを示しています——創18:33. ローマ8:26-27。

**VI. マタイによる福音書第6章において、主が弟子たちに教えられた祈りの模範とは、神のみこころを言い表す祈りです——9-15節：**

- A. 祈りの原則とは、隠れて見ておられるわたしたちの御父によって見られるために、隠れて祈ることです。わたしたちは隠れた方法で、主に祈り、主を礼拝し、主と接触し、主と交わる必要があります——5-6節：
1. わたしたちが命において成長することを最も妨げるものは、自己です。自己は公に見せびらかすことを享受し、人の栄光を受けようとします——ヨハネ5:44. 12:43。
  2. わたしたちが御父の隠された命によって生きるなら、わたしたちは多く祈りますが、他の人はわたしたちがどれほど祈ったかを知ることがないでしょう——イザヤ45:15。
- B. マタイ第6章9節から13節は、「天におられるわたしたちの父」に「このように祈」るように、主がわたしたちに教えられたものです(9節前半)。この祈りの模範は、三つの区分に分けることができます：

1. 神に関する三つの基本的な祈りは、神聖な三一と関係があります。  
「あなたの御名が聖とされますように」はおもに御父と関係があり、  
「あなたの王国が来ますように」はおもに御子と関係があり、「あなたのみこころが天で行なわれているように」はおもにその霊と関係があります——9節後半-10節前半。
  - a. このことはこの時代に成就されつつあり、それは神の御名が全地において卓越し、世の王国がキリストの王国となって、神のみこころが成就される時、王国の時代において究極的に成就されます——詩8:1. 啓11:15。
  - b. キリストはサタンの反逆と人の墮落の後に来て、天の支配を地にもたらしめました。それは、地が神の權益のために回復されて、神のみこころが天で行なわれているように、地でも行なわれることができるためです(マタイ6:10後半)。地が来たるべき王国時代における神のみこころのために完全に回復されるまで、王国の民はこのことのために祈らなければなりません。
2. わたしたちの必要に関する三つの要求は、保護の祈りです、「わたしたちの日ごとのパンを、今日も与えてください。わたしたちが自分に負債のある者を赦したように、わたしたちの負債も赦してください。わたしたちを試みに遭わせないで、あの邪悪な者から救い出してください」——11-13節前半：
  - a. 「日ごとのパン」は、信仰によって生きることを示しています。わたしたちは信仰によって、また御父の日ごとの供給に頼って生きるべきです。
  - b. 王国の民は、自分に負債のある者を赦して、平安を維持したように(裁定するキリストの平安によって)、自分たちの負債、失敗、違犯を赦してくださるよう、御父に求めるべきです。わたしたちは、わたしたちと神との間の、またわたしたちと他の人たちとの間の分離するどのような要素も取り除かなければなりません——14-15節。コロサイ3:15。
  - c. わたしたちは自分の弱さを知っているので、わたしたちを試みに遭わせないで(その霊によって満たされることによって)、あの邪悪な者、すなわち悪魔と彼から出る邪悪から救い出してください。御父に求めるべきです——ヨハネ17:15. エペソ5:16-18. 6:13。
3. 御父への祈りは、ほめたたえる祈りである三つの敬虔な賛美をもって結んでいます、「それは王国と力と栄光とが、永遠にあなたのもので

あるからです。アーメン」。王国は御子のものであって、神はその領域の中でご自身の権能を行使します。力はその霊のものであって、神の意図を完成します。それは御父が栄光の中で団体の表現を持つためです——マタイ6:13後半：

- a. こういうわけで、主の祈りの模範は神聖な三一をもって開始し、神聖な三一をもって終わっています。
  - b. それはまた父なる神をもって開始し、父なる神をもって終わっています。父なる神は初めであって、終わりであり、またアルファであって、オメガです。
- C. そのような極めて重要な祈りは、わたしたちに御父の心の願いである天の王国をさらに多く求めさせ、わたしたちの必要を供給し、わたしたちに恵みの神聖な供給を得させて、天の王国の最も高くて厳格な要求をすべて満たさせ、神を大いに喜ばせます。